

福岡

福祉活動専門員の

ま な こ

社協活動前進のために

No.39

1996年2月発行

福岡県専門員連絡会

まなこ編集委員会

印刷 コロニー印刷



雄琴温泉 体験レポート!

しゅんくつて、第3回全国社協職員をつどい参加報告

福井県社協 木山 淳二

一月十三日、十四日の両日、「出会おう、ふれあおう、わかちあおう」
くつころう、ウチらのライフライン」を

テーマに、北は福島県から、南は熊本
県までの社協職員二二〇余人の参加の
もと、第三回全国社協職員をつどいが、

雪まだ残る琵琶湖のほとり雄琴温泉で開催された。

私は、せっかくの連休を返上し、「自分だけ温泉なんていいね」の家族の言葉を背中に、専門員連絡会の経費を使う責任上、報告レポートを書かなくてはならないというありがたい条件付きで、参加させていだいた。

女子大生との 相席もつかの間

博多九時発東京行ひかり三六号は、連休のせいか指定席は満席。仕方なく、自由席に座るべく三十分前から並び、寒風が

吹き荒ぶプラットホームに缶ビールを片手に立った。

その努力の甲斐あって、無事座席を確保。隣は、と見ると女子大生風のギャル。これまた、超ラッキーである。「これは、春から縁起がいいや！」とビールで喉を潤した。その幸せも束の間、徳山から歳のころなら八十四〜五歳、腰が九十度に曲がったご婦人が乗車してきた。

悪い予想ほど当たるもの。私と女子大生の座席の横にすがるように立つそのご婦人。状況は、どちらが席を譲るか、それとも死んだ振りをするかである。

女子大生は、なにやら一生懸命お手紙を書いておられ、いっこうに立つ気配なし。

私も、せっかく苦勞して確保した座席をそう簡単には譲りたくない。ましてや京都までは、まだまだたつぷりである。「えーい、死んだ振りだ」、「いやいや、福祉労働者たる者、お年寄りに席を譲るべきだ。」葛藤は続く。

「よしこうなったら、次の駅で降りられることを期待して席を譲ろう。お年寄りの事だ、そんなに長旅はしないだろう。」、そう決心して席をたつ。

「どうぞ、こちらの席にお座りください。」

少々遠慮はされたが、ご着席。

さあ、本題である。「どちらまでお出掛けですか」。期待に満ちた私の声。だが奇跡は二度起こらず、不幸は二度続

く、「東京までです」。

ハイ、そのそれまでよ、である。こうして京都までの長い旅は始まった。京都駅から湖西線に乗換え約二十分。憧れの雄琴温泉駅到着。頭の中は、男性週刊誌で見たあのグラビアが駆け巡る。ところが、駅は小さく、周りはいくと、住宅地の造成中らしくそれらしき建物は、なにもない。客待ちするタクシーもなく、待ち受けていたホテルの送迎バスに乗り込む。これからが、憧れの光景かと思ってもなく、会場である琵琶湖グランドホテルに。琵琶湖が眺められ、期待の建物はなく、静かで、本当に研修には最適の場所であった。

これからが正念場
未だ厳しい震災後の状況

まず初めに、開会行事と兵庫県から震災後のいまだ厳しい市民の生活や社協の現状が報告された。

テレビや新聞では着々と進む復興の様子だけが伝えられるが、四百人を越す人々が、未だテント生活を強いられしており、また、四万七千戸ある仮設住宅では、高齢化率が、三二・五%、そのうちに占める一人暮らしの方の比率が、一九・九%と非常に高い数値になっている。しかもこの状況は、今後ますます進展することが予想されるらしい。

このような状況下で、日々活動する社協職員は、自らも被災者としてのス

トレスと厳しい財政、労働条件などで体調を崩す人が多く、人と資金の不足が大きな課題となっているようだ。一周年を迎えたいま、「これからが正念場だ」という報告を聞き、すつかり、過去の出来事として、また他人ごととなつてしまっている自分を恥じた。

個別援助ネットワークができなければ
小地域福祉活動じゃないの？

一日目の中心は、九つに別れての分科会だが、私は、その第七分科会「小地域ネットワークについて」というテーマの分科会に参加した。今日のこのテーマのせいにか、三十三人構成の最も大きいものとなった。

寝屋川市社協職員の方からの「市社協職員から見た小地域福祉活動の課題」と題した問題提起を受けて、AからFまでの六グループに別れ、小地域ネットワークの目的と活動をKJ法で討議した。KJ法という慣れない討議方法に少しばかり肩の凝りを覚えたが、大変勉強になる進め方であった。

私の所属するD班は、調布市、奈良市、福井市の三人の女性と千葉市の男性との五人で、小地域福祉活動は、福祉コミュニティづくりを目的にするもので、そのための活動として人と人との関係づくりや福祉ニーズの把握と住民の主体的な解決活動などがある、といったようなことを話し合った。また、いま流行の「個別援助ネットワーク」は、それ自体を目的とするのではなく、

あくまでも小地域福祉活動の一部であるといったことを確認した。

他グループからの報告も、まとめ方や表現に差異はあるもののおおよそ同じような結果であったように思う。

二時間三十分の時間が大変短く感じられ、研修としては徐々に充実した時間を過ごすことができた。

他の分科会については、報告することができないが、各分科会に参加した方の感想を参考までに掲載するので、推察していただければと思う。

第一分科会 二十代の分科会

いろんな人の話を聞けたし、私の日頃思っていることと同じことを思っている人がいて、嬉しかったし、自分の意見も(少し)言えたので、充実した時間でした。

仕事内容の話はのちのち身につけていくとして、それ以前の間関係とか連携の大事さがやっぱり印象に残りました。(兵庫県)

第二分科会 職場で自分の思いが語り合えますか？

分科会の参加者の方々と同じ悩みを持つていることを知り、ちょっと安心しました。

皆、意欲的な発言をされており、「自分も積極的にならなければ」と思いました。

この分科会で少し、リフレッシュできそうな気がしています。(愛知県) 第三分科会 私ももっと育ちたい、そのためには...

「箱庭づくり」と言う事でこの分科会に参加させていただきました。でもそうではなく少し残念でした。

でも心理テストも大変楽しくやらせていただき、有意義でした。

全体的に自己紹介があればよかったのにと思いました。(滋賀県)

第四分科会 語ろう！社協への夢・希望 そして未来

土と風ー楽しかった。あしたは、風になりたい。福祉は人なりーを実感しています。社協もすてたもんやないナすごい人材あるやん!!! (滋賀県)

第五分科会 農・漁・山村での在宅福祉を考える

大変な田舎の我が町ですが、これから頑張る力がわきました。(奈良県)

第六分科会 在宅福祉の「質」の向上について

地域によって、在宅福祉サービスのとらえ方が違うのがわかりました。

これから先の課題、自分の中で注意すべき点があったと思います。(奈良県) 第七分科会 小地域ネットワークについて

「小地域福祉活動」についての討議は久しぶりだったように思います。

ハウツーでの検討が多くなってきた中で、コミュニティに対する福祉をあらためて意見交換ができたと思います。(?)

第八分科会 社協ワーカーのこだわり 現状追認するのはやめて、愚直なほどこに本質論にこだわることの必要を感じ

じました。(目の前の課題はその本質の中で考えましよう)(?)

第九分科会 委託事業と行政の関係
委託については、みんなそれぞれ何か想いをもっている。なかなかまとまらないけど明日もみんなで言いたいことを言いましよう。(神戸市)

いろんな人がおるぞ
盛り上がった名刺交換

分科会終了後、交流会、二次会と相成った。

その席上、熊本からの女性出席者とお会いしたが、自費での参加とのこと。「井の中の蛙になりたくないから」という彼女の参加動機に、自分の存在場所が井であることすら無自覚な私は、ただただ頭が下がる思いだった。

また、地域から「ソーブランド」に話が及んだのだが、障害を持つ人が利用できる店を当番制で決めていられるらしく、当番の店では入店拒否はなく、たとえ全介助でも利用できるとのこと。まさに特殊入浴サービスである。

強いて言えば、当番など決めること無く、好きなときに、好きな店に行ければと、話したことであったが、女性問題の運動家の方々からは、「ソーブランド」の存在を認めることで大層お叱りやひんしゆくを買うかもしれないが、障害を持つ人やお年寄りの性の問題から目を逸らしている現実にあつては、必要悪ではないかと私は感じた。

二次会では、大学時代に上野英信や

土門拳を読み筑豊や炭鉱に興味を持ち、田川や直方、あるいは高島など旅をしたという若者と出会い、意気投合してしまい、いつものごとく二日酔いパターンであった。

蛇足ながら、落語の宣伝もしてきたので、仕事がくるといいいなー。

あなたが望むからネットを
組むのです

二日目は、早朝(私にとっては)九時より、昨日からの分科会。

福山市社協の藤井悟氏の「福山市社協の小地域福祉活動と小地域ネットワーク」と題した総括事例発表がなされ、個別ネットワークを組むときに、福祉専門職がおかしがちな対象者の人格を無視した押し付けや、自立心を損なうような過剰な援助などが指摘された。

また、ネットを組む際、「あなたが望むからネットを組むのです」という対象者との共通理解を持つことが必要であり、ネットワーク活動は、非常に息の長い活動だとの話があつた。

教育とは根を張る教育であつて
芽を伸ばす教育ではない

分科会終了後、全体会へと席を戻し、近江学園で糸賀一雄氏と活動を共にされた三浦了氏の講演、「滋賀の障害者福祉の歴史と現状」へ糸賀一雄氏から学ばうが行われた。氏の関わりの中から糸賀氏の人となりや、その昔、社協に入ったばかりの頃、書店で見つけた

「福祉の思想」を買って読んだことを思い出しながらうかがつた。

この講演の中で、「教育とは、根を張る教育であつて、芽を伸ばすものではない。」という言葉が印象にのこつた。

今の教育は、芽を伸ばすどころか伸びようとする芽さえ摘み取ること、芽を揃えることに躍起な「剪定教育」ではないだろうか。

教育だけでなく社協活動も打ち上げ花火的な事業で伸びた芽を行政に、あるいは一部の住民にアピールしているにすぎないのかもしれない。根気強く土にしつかりと根を張る活動、言い換えれば、「目に見える社協」ではないけれど、悩みや課題を抱える住民の一人一人と向き合った地道な活動を続けることこそが、本当の社協生き残りの道かもしれない。そんな事を考えていた。

全国に広げよう
自主研究会の輪を

昼食をはさみ、「社協職員自主研究会の意義と役割」をテーマに、パネルディスカッションが行われ、静岡県、大阪府、兵庫県での取り組みが発表された。

県社協主催の研修会や研究会では、自由な論議ができなかったり、あるいは主体性に欠けると言う事から、自分たちで月に一度や二か月に一度といった具合に、研究会を開いているのと。三者に共通しているのが、その会に参加することによって、「明日からの

仕事のエネルギーになる」、「視野が広がる」などがある。また同様に参加者が少い、メンバーが固定化してくるなどの悩みも共通しているようだ。

いずれにしても、福岡県専門員連絡会の形骸化が危惧される現状と照らし合わせながら、フロアーからも報告されるその他の地区での取り組みを羨ましさを感じながら聞いていた。

二日間を通して感じたのは、企画への心配りのきめ細かさである。

たとえば、昼食時に各分科会の報告をビデオに編集して流したり、二〜三時間おきに発行される「たぬき」というミニニュース紙など、徹夜の作業を敢行してのご苦労は、主催した関西社協コミュニティワーカ協会並びに実行委員会の結束力こそ成せるものだろう。

自主性を欠いた今回の参加ではあつたが、最近に無く元気をいただいた研修に、帰路につく頃は「来年もまた…」の思いが芽生えていた。

もちろん、次回は報告レポートなしで。



特集

社協、専門員に問われる「専

社協事業が多岐にわたっている今日、社協、あなたも一緒に考えてみませんか？

資格社会と専門性

直方市社協 高石 伸人

「いま、なぜ専門性論議か」という問いを念頭に置きながら、与えられたテーマについて、「専門員」であることをいくらかは自覚しつつ、昨今の想いを述べてみたい。

まず、「社協の専門性」と「社協職員の専門性」とが、住民の眼からすればずれているかもしれないと思う。それは、私が入った頃は、実態はともかく社協イコール地域組織化活動の推進組織であったが、いまその業務は多岐に及んでいて、給食サービスやデイサービス、在宅介護支援センターまであって、そこには、保健婦や看護婦、栄養士、中には作業療法士まで、いわゆる「専門職」の人が社協職員として採用されている。

その種の職種の「専門性」というのは、自他共に認められるのそれとして分かりやではその人達が「社協」を代表しているかといよつと違うんじゃないつまり、給食やデイはても特養や老健施設にケースもあつて、社協事業ではないからだ。

言わば、「専売特許的専門性」こそが社協の、のアイデンティティにあるということになりそこ

ところで、資格化現象「専門性」を考へてみるの口ではあつて、少し長い職員なら、たとへべて社会福祉分野でも者が採用されてきていお持ちであろう。

一九八七年の「社会福祉士」の制定を引の有資格者が地域の施「その面」下げて入っ

病院などに選定は「カラーリスト」、爪の手入れは

図を予感させて、ハツとしないだろう

「性」

は専門員

「専門的技術」

「しかし、

「誰しも「ち

「思うだろう。

「「協」やなく

「「されてい

「かやれない

「としての「専

「て社協職員

「責任感を与え

「ある」

「の絡みで「専

「一つの切り

「社協に勤めて

いぜい社会福祉主事資格しか持たぬ社協職員としては、文字通り顔負けして小さくなってしまうということだつてあるのかもしれない。

「エステイション」、その他「テレホンアポインター」や「フロアーレディ」、

社協職員の「専門性」という時、私たちに求められるのは、吉澤英子氏の指摘する、「人権という視点」や「問題要因明確化の視点」などと共に、たとえば生活問題を抱える当事者に接するときの「態度」とでもいうべき資質がきわめて重要な要素になると思われる。資質といえは生来のものと誤解を受けそうだが、他者への共感力(情力)や意欲、人間のしがらみに耐える力、腰の軽さ、立ち止まる勇氣、経験、そして価値感や専門的知識などの集積として考えるべきであろう。

その意味では、社協の固有の役割や職員の「専門性」を問う場合、いたずらに専門職化に振り回されることなく、さまざまな社会矛盾を背負われた人々と歩みを共にし(問題を足場に)、他市町村の社協職員とも研修や情報交換の機会を持つて、具体的な活動事例に学びながら錬磨していくものだと思われる。そのような出会いの場として、職員の連絡会が目指されるべきではないだろうか。

社協自体の組織化について

八女市社協 中野 孝人

私は、昭和59年4月1日老人福祉センターの嘱託職員として八女市社会福祉協議会に就職しました。同期採用は水町芳博君、井上裕子さん、中島しげ

美さんの4名で、当時の職員数は私たちを含めて10名でした。その後福祉会館事務局へ移動、現在、専門員と事務局長を兼任し職員数は、36名です。これまでの11年間いつも頭のなかにあった「組織」について述べさせていただき、自分は社協を組織化出来たのか反省の場になりたいと思います。

社協という組織は 共同体組織か 機能体組織か

◆共同体組織(ゲゼルシャフト)は、構成員の満足が目的です。

家族、地域社会、趣味の会など、人の世の摂理によって自然発生的なつながりて生まれ、構成員の満足追求を目的とした組織であります。

従って、その組織の発展よりも、構成員それぞれが組織に属する目的(満足)を満たすことが重要になってきます。(社協はこれかな?)

◆機能体組織(ゲマインシャフト)は外的目的達成が目的です。

組織内部の構成員の満足や親交はあくまでも目的達成のための手段であって本来の目的は、利潤の追求や戦争での勝利や、一つのプロジェクトの完成など組織外の目的を達成することです。(官庁、軍隊、企業、政党、社協はこれかな?)

何が原因で社協は 元気を無くして 行くのか

(組織論理の類廃)

◆腐敗より恐ろしい類廃

論理には、腐敗と類廃とがありま

す。腐敗とは、悪いと知りながらも悪辣な行為が横行する現象です。(○の濫用や○○人事など)

これに対して論理の類廃とは、何が悪いかわからなくなる現象です。

◆情報の内部秘匿
事業成果の過大評価と過大報告。

◆総花主義(集中の不能)
能力の均等分散が固定化し、集中が不可能になる。

◆減びの美学
「どうせ私たちは○○だから、しかし、私は、生涯この事業をやり続けていくのだ!」という悲しい誇り。

企業の場合には、一旦事業が低迷し、他の企業よりも給与水準が低くなり出世が遅れだすと、共同の経済的受難に快感を感じはじめます。

◆「予算不足、施設の不備、人材不足」を並べ立て組織の欠陥を隠す。

ある会議で問題点を挙げてみると、大抵は、カネとヒトとモノの不備を並べて、組織的欠陥を述べる人はほとんどいません。

もともと機能組織は、効率を追求するのだから、費用対効果の比率が

重要であります。従ってカネとヒトとモノは不足気味なのが当然なので

です。

◆機能体が共同体化すると:
構成員が心地よく生活するためには、まず内部での競争が少ないほうがよいのです。それには、まず終身雇用を徹底し、次いで内部の出世競争を無くしていきます。

能力や実績による抜擢人事を行わず、一番わかりやすく変えがたい基準で栄転昇進を決めるのがベターになります。最もわかりやすい基準といえば、年齢又は所属時期であります。従って共同体化した組織では、年功序列人事が一般化するの当然の摂理です。

組織は、組織を防衛する

◆組織は目的に向かって進まないことがあります。

組織とは、ある目的をもった集団です。組織が創られるときには、必ずそれを創る特定の目的が存在します。しかし、そうして創られた組織も、又組織としての特定の目的を持ちます。組織は、組織自体が目的を持つので、組織を創った人達が描いた夢(目的)を忠実に守るわけではありませぬ。組織を創った場合こういう場面によくであります。

障害者の社会参加を目的に創られたボランティアグループ（組織）がボランティアと障害者を押し倒しながら自己増殖に努めた例は多い。イベントをするたびに障害者をほったらかしにして、イベント優勢につき進む。組織は、組織を防衛し、組織を創った人を防衛しなくなる。「これをボランティアのタコツボ化」といいます。

フィクション

20××年政権政党は、地方自治法の全面的改正法案を上程した。一般に新地方自治法案といわれるこの法案は、1947年から施行されてきた日本の地方自治の枠組みを大きく変更するものだ。

この法案で、都道府県はすべて廃止される。都道府県にかわって、全国を9つのブロックに分け総合地方庁が設けられることになる。

市町村は一応存続する。しかし、大合併が行われ全国に1000程度の市町村が置かれることになるだろう。

市町村の仕事の多くは、民営化される。電話の契約と同じように、市民は例えばゴミの収集について複数の会社の中から適当なところと契約することになる。

昔、民間委託が大きな話題を呼んだことがあったが、ゴミの収集処理その

ものが自治体の仕事ではなくなる予定だ。これは、一例にすぎない。これまで市町村が行ってきた仕事の多くが民営化される。

さすがに小中学校の完全民営化は取り止めになった。設置は自治体の責任とされるが、運営はそれぞれの学校の独立採算となる。

高校は、高等学校管理基金によって設置され、運営はやはり独立採算となる予定だ。既に、7年前に、国立大学は全て独立採算になっており、駅弁大学といわれた大学の中には廃校となったところもある。

全国社会福祉協議会、都道府県社会福祉協議会、それに全国3200市町村の社会福祉協議会は……

考えてみれば、あれを創れこれを創れとやってきた時代は良かった。自分の懐だけでやっていかななくてはならないこれからは、大変だ。



〈連載〉社協サポーターに拍手喝采

市町村社協の理事や評議員といった立場で、社協事務局を支え、日夜奮闘いただいている方々にご登場願ひ、思いの丈を語ってもらう企画です。

第5回目は、「八女市にこの人あり」と言われる八女市議会議員の山下恭平さんです。

過激な中にも本音がチラリと見える山下さんの言葉に耳を傾けてみては？

あなたの福祉観に問いかけます。

山下恭平さんにインタビュー

質問1 山下さんが社協で活動されるようになったきっかけは。

私が障害者というのが一番のきっかけです。1982年から、八女むらまつりを市社協に援助してもらおうように頼みに行っていたから。つきあいです。それからは、ボランティア、職業訓練生、臨時職員、嘱託職員、理事と社協の出世魚ブリのようです。社協とのつながりは、ボラ連会長時代から、より深くなってきたと思いますが、それが全てのまちがいの始まりでした。…笑

質問2 八女のボランティア活動の現状を教えてください。

高校生の組織化をおこなっています。また、八女ボラ連の会員は現在300名で、市外の人もありとあらゆる人が参加しています。会費100円を払っ



ボランテニアセンターは、社協の除湿機、もしくは日本道路製作会社とあります。その心は、社協のゴミを取り除いたり、ボランテニアが新しい道を作っていくものだと思います。やはり福祉では社協が主体であり、ボランテニアセンターは主体にはなれないのです。そして、これからのボランテニアセンターは、在宅障害者の支援、福祉資源開発、福祉人材の養成所とならないといけない。そのうちボランテニアセンターの中から、ヘルパーさんが発生してくると思います。社協とボランテニアセンターは、車の両輪で、病院や土日の対応など行政や社協ができません。

質問3 社協とボランテニアセンターの関係はどう考えられますか。

たら永久会員ですので、一度接触があった人は、スツポンのように離しません。このような八女ボラ連に対する個人のかかわりから、介護者の確保につながっています。これを私は、サポーターハンティングと呼んでいます。

椅子介護ができるようになった人が3人。尿器をすすいでくれる人が4人です。こんなに変わりました。一番変わったのは、当事者の意見が反映される

質問5 山下さんが議員になられて八女市が変わったところ、変えたところを教えてください。

私が議員になって、議員のなかで車椅子介護ができるようになった人が3人。尿器をすすいでくれる人が4人です。こんなに変わりました。一番変わったのは、当事者の意見が反映される

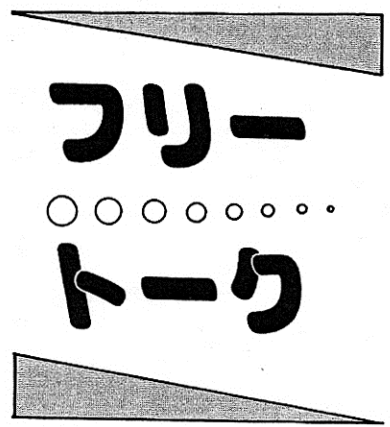
質問4 社協が事業型化していくなかで、公的介護保険でも高齢者中心となつていきます。障害者という立場でどう考えられますか。

い活動ができるのです。そのことが、社協を変え機関委任事務から団体委任事務となつていくのです。COという社協マンはコミュニケーションガニゼーションと思いがちですが、私は、一酸化炭素中毒に社協マンがなっているのではと思います。

質問6 県内の悩める社協マンに一言お願いします。

ガイドヘルパーの導入です。それと議員さん自身が介護の体験ができる。しかし、課題が多すぎて私が議員を100年しても変わらないでしょう。それでも意識して議員さんに介護を頼むようにしています。

社協は行政に対するコンプレックスがあると思います。社協に自治権がないのが問題です。社協マンは、社協に頼つて来る人達のことばを行政に伝える代弁者です。いわば被告に対する弁護士のようなものです。行政は、住民の声は、無視できないし一番怖いのです。社協は福祉のプロで、行政よりも福祉にくわしいはず。その意識をもつこと、自信をもつこと。そのことは経理をしている人でも同じことで、住民から見れば、社協の人は福祉のこととは何でも知っている人なのです。福祉の専門家になることで行政の向も減るのではないのでしょうか。社協は行政もどきじゃなくて、民間であるべきなのです。現在悩んでいるあなた。あなたのまわりには、様々な活動を頑張っている人がいます。そして困っている人も。悩んでいるひまはない。「悩んだら」なのです。障害者を恐れ。仲間は社協だけじゃない。明るい未来のために頑張ってください。



須恵町社協 岐部 健一

「あいだがり」

毎年のことですが、私の4月から11月までのほとんどの日曜日は、野球SUNDAYとなつてしまっています。小学生の頃から少年野球をはじめ、高校野球を終了するまで野球一筋だったせいもあるのでしょうか、頼まれると断れない性格も手伝つて現在は4チームに顔をつっこんでいます。おかげさまで、いろんな方と知り合いいなれました。工務店の専務さん、瓦屋さん、中古車屋の社長さん、電気屋さん、葬儀屋の息子、飲屋のマスター、プールの監視員、看護師等々。年齢や職業は違つても一旦ユニホームを着てグラウンドに出れば先輩、後輩はありません。私はキャッチャーですが、キャッチャーは位置的に試合中にあっちこち指示を出さなくてははいけないポジション

ヨンなんです。これがキャッチャーの大変さでもあり役得な面でもあるんです。

指示をする時は、もちろん敬語なんかつかいません。仕事上、頭も下げたお願ひすることが多い中、この時、とばかりにストレスを発散させます。外野からの返球がそれで相手の得点にでもなるものなら、「しっかかりかえさるか」ぐらいは当り前で、「なんばしようとかや」「どこにかえしようとかや」等と文句ともとれる指示を出すわけですが誰一人として不愉快な顔をする人はいません。

それは、たとえ草野球であつても勝つ目的は皆同じ？であり、勝つためにはミスを少なく、締まった試合をしなれば勝てないということを皆知っているからなんでしょうが、そうは言つても草野球にエラーはつきもの、珍プレーの連続です。そこで私のストレス発散の場が台本通りにセツティングされるわけです。

試合が終つて勝つても負けても、反省会という名の「飲み会」があります。私はほとんど飲めないのですが、必ず出席して言いたいことをいうようにしています。

《ある試合の反省会から：》
「○○さんは、一番大事な場面で大きなエラーをし、チームを負けに導きました。(笑)しかし、キャッチャーである私のストレス発散の場を毎試合必ずセツティングしていただく○○さんの

優しさには、深く感謝しています。(笑) 相手を思いやる気持ち、尊重する姿勢は、福祉関係に従事する私にとつて大変勉強になります。」(大笑)
最後に、野球を通じて知り合いになつた方々との「あいだがら」を大切に草野球を今後も続けていきたいと思ひます。当分の間、私のストレス発散の場はなくなりそうにありません。あーよかつた。

仁義なき戦い

田主丸町社協 林田 稔男

「今日は寒かねえ。」この言葉が聞こえる頃になると思ひ出す一人の老婆。八十代のこの老人は、一人暮らし。畳一枚ひかれていない部屋には、布団替わりの四枚の座布団と尿を入れるバケツがあるだけ。家の中には雪が降る日は雪が舞い込み、風の吹く日は木枯らしにのつて枯れ葉が舞い込む。使われない五右衛門風呂には枯れ葉が半分以上も降り積もっている。半身に麻痺の残る体で作る食事も白御飯にイリコをのせただけの粗末なもので、それをへこみだらけの鉄製の器に入れて食べる。もちろん入浴など、ここ数年行つていないとのこと。暖をとる道具というと、小さな火鉢式のこたつに、薄っぺらの毛布一枚のせただけ。

十五年前、社協へ就職して間もない頃の福祉の現状である。特老ホームの

建設ラッシュの時代である。ヘルパーの訪問が開始されたものの、この老人の現状をみて、在宅なんて考えられない、病院なんてかかつたこともないし、入院なんてもつてのほかのこの老人、開始早々の施設を利用しての我が町の入浴サービス。これしかない、入浴を勧めよう。結論に達した弱小社協の新社協協マンは、何度も訪問を繰り返し、やつとのこと、「行つてみるかの。」の言葉を得られた。

「ばあちゃん寒かねえ、ぬうくかお風呂に入ろうか、お風呂入つたら帰つて来ればよかけんね、またつれて帰つてくるけん。ね、ね……。」

ふと見ると、老人の頬に一筋の光るものが。あんたにや負けたばい、とでも言いたげに、うつろな目を私に向けてこつと笑つたあの笑顔。

それつきり、この老人は施設の人となつた。数ヶ月後、その施設を訪れた私は、春の陽光につつまれたテラスで車イスに乗つた老人と再会した。私の顔をじつと見ている。心なしか赤みの増した頬は、光を映しピカピカに光っている。「ばあちゃんどげんね。ここは良かる。」と尋ねた私に返つてきた言葉は、「ほんに良か、ぬうくなつて天国に来たごたる。」

それから、一ヶ月程して訃報が届く。最近、「終末ケア」なる言葉をよく耳にするようになった。この四月に久々に社協事務局へ戻つてきた私、数ヶ月経つたある日、民生委員と役場の担当

係長が社協へこられ、これこれこういう理由で退院されて、在宅になられるのでヘルパーさんをお願いします、とのこと。六十代後半のこの男性、胃がん、それも末期がんと患者であるとの情報。この時初めてこの言葉を聞き及んだのだが。便とゴミまみれ、食事も満足に取らないこの男性、一ヶ月程の一人暮らしの在宅生活の後、再入院。自分で歩けない程に弱つた男性を病院へ送る車中、民生委員や行政、ヘルパーに対する苦言ばかり、降り際にもらした言葉が「地獄のごたつた、ほんなこつ。」間もなく訃報が届く。
在宅にも限界がある。対象者の最後の言葉が処置の良否を物語っているような気がしてならない。福祉は変わった、実感する毎日である。

うちの常連さん

立花町社協 中村 哲也

社協業務にこだわらず、つらつら考へていることを書くようにということだが、いざ書こうとすると何もうかんでこない。

終わり。というわけにもいかないで、事務所がある老人憩いの家に来ている常連さんのことについて書きたいと思う。

多分、憩いの家が出来た当初から来ているであろうおじいさんがいる。事務所内では通称「赤じいさん」と呼ん

でいる、この正月で満一〇二歳になつたおじいさんだ。

赤い帽子に赤い服、今は赤いマフラーを首に巻き毎日憩いの家に遊びに来ている。それも一キロはある自分の家から歩いてである。さすがに最近家族の方も近くまで見送りに来てあるがまだまだ足どりも軽く、スタスタ歩いている。いっしょに歩いたら負けるかもしれない。

この赤じいさんは、ゲートボールが好きである。他の常連さん達とチームを組んで、楽しそうにやっている。ただ、ちよつと耳が遠いので、同じチームの人から「こつちに打つて。」とか、「そつちに打つたらいかん。」とか言われても全然分らない。自分の打ちたいようにポンポン打っている。それでよく怒られているが、聞こえないから平気なのか本当に楽しそうだ。

また、テレビを見るのも好きらしい。朝、憩いの家に来るとテレビの前に自分の椅子をもつてきて、すぐにスイッチをひねっている。他のお客さんが見たい番組があつてもなかなかチャンネルはゆずらない。なにしろ、このテレビは赤じいさんが憩いの家に寄付したもので、自分のテレビと思つていてわけではないのだらうがガンコである。今はイヤホンをつけて見ているが、以前は映画館のような大音量で見えていたので、事務所までうるさかった。こういう感じで、憩いの家で一日すごしているわけだが、一番すごいと思

うのは、病氣にならないことだ。私が社協に勤めて七年程たつが、その間、カゼひとつついていないのではないだろうか。

人生八〇年といわれるが、このおじいさんを見てみると人生一〇〇年といわれる日がそう遠くはないと思えてしまう、そんな「赤じいさん」だ。

こどもたちからの警鐘

新吉富村社協 沼野 淑子

「私は傷をもっている。でもその傷のところからあなたのやさしさがしみてくる。」

部屋に下げたカレンダー。うす黄色の可憐な花のスケッチに小さく添えられた片すみの詩。毎日々々、日々の私をなぐさめて明日への勇気をくれる。いらだつ心を静めて、やさしい気持ちにしてくれる。

星野富弘さんのことを知ったのは、もうずい分前のことになるけれど、あの出合った（実際にはまだ一度もお目にかかったことはないのだけれど）時の、何とも言いようのない感動はいつまでも心に残っている。星野富弘さんのことばや詩から、星野さんの確かな「いのち」がやさしく、厳しく、私に問いかけ語りかけてくれる。

生きることへの挫折と絶望。その淵から愛を知り、生かされている「いのち」を知る。星野さんの確かな「いのち」の息づきが伝わってくる。

最近、続けてまた二人の中学生が自らの命を絶つて遠いところへ旅立っていった。同じ世代のこどもの親としてこの現実にはたまらない。無念さと後悔と自責の念に一生縛られても、愛する我が子はとり戻せない現実……。

十代の限らない未来が約束されているはずのこどもたち。その死に様は、あまりに切なくて痛ましい。

「生きていることが、ほんとにつらかったらう。」

「死ぬことで自分を楽にしたかったらう。」

たった十何年かしか生きてない人生、人生と呼ぶにはあまりにも短すぎる時間の中でそんなに深い絶望を味わってしまったなんて……。みんな、私たち大人の社会の責任なんだ。

○

「ほんとうにごめんね。」

世間やマスコミが、今の日本は戦争もなくして平和で幸せだなんてよく言うけれど、ほんとにそう言えるんだらうか。いじめや差別があつて、こどもたちが絶望している社会のどこが平和って言えるんだらう。

この前、長崎に住んでおられる松尾敏さんが、こちらの方までお話をしに来られた折、「いのちが平等に扱われて真の平和といえる。」という内容のことを言われた。このことばを真摯に受けとめたい。今、こどもたちの鳴ら

す警鐘に耳を傾けて、大人たち自らが社会のあり様の非を問い直さなければ、この社会全体変わってゆくはずがない。と、言いながらどこか自分も虚しくなつてやりきれない。もつと正直に言つてしまえば自分の無力さを恥じている。

○

我が子を含めてこどもたちに知ってもらいたい。生かされているいのちの尊さといのちを愛すること。同じ様に自分のいのちも愛され、かけがえのない尊いものだということを。

○

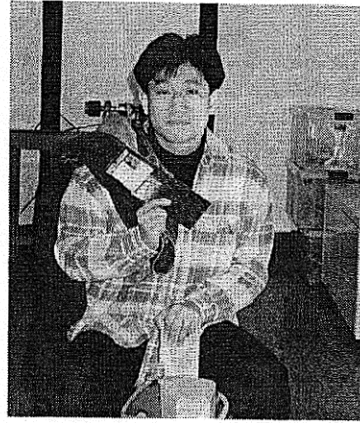
二月、三月、四月になって、れんげの花が風にゆれる頃、星野富弘さんが大分市に来られるらしい。四月九日（二十一日）に大分県立芸術会館で、「花の詩画展」が開かれる。その初日だけお会いできるかもしれないと聞いた。

多分、何も話せなくて遠くから見るだけに終りそうだが、とても楽しみにして待っている。



新人紹介

明日花咲け

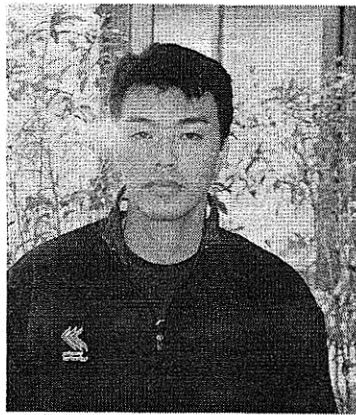


志摩町社協 加藤 博貴

○経験年数 六カ月
 ○特技趣味 パチンコ・プレイステーション・読書(マンガ)・陶芸・釣り
 ○セールスポイント 笑顔(カッコイイ・シャイなのであまり見せないが見た人は幸福者)
 ○メッセージ
 まだまだ右も左も分かりません(社協内で方向○ンチと言われている)。競艇で言えば、予選の六人には入り

ましたが、コース取りできずに六棒から出おくれ状態です。(トーシロってこと、期待してくれる人から罵声がとぶ)

あえて諸先輩の皆様にもメッセージすることは、ドラフト外で入ってきましたので、いつ戦力外通知を出されるか毎日ビクビクしていますのでよ〜くかわいがって下さい。(特定の人には言ってません)ところでパチンコ負けっぱなし連続挑戦中を止めてくれる方どなたかいませんか?

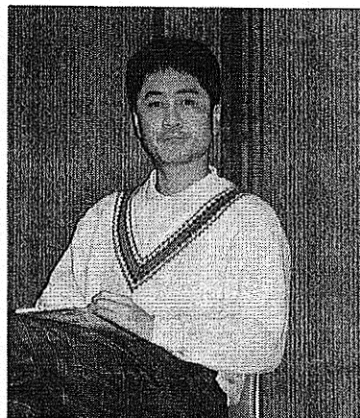


香春町社協 井上 誠

○経験年数 二年六カ月
 ○特技趣味 バスケケットボール
 ○セールスポイント 明るい
 ○メッセージ
 平成五年八月に香春町社協に入り福祉活動専門員として従事してきましたが、二年が過ぎた今、毎日の業務の中で専門員としての役割を十分に果しているか又、町民のニーズに対して一つでも多く応えらるよう努力しているか反省の毎日です。
 香春町社協は香春町地域福祉センター「香泉荘」に事務所を置き、町の

委託を受けデイ・サービス事業を実施していますがが私自身、学生時代に福祉の勉強をしたわけではないので、毎日が初めての経験でした。

お年寄りとの出会いは大変貴重な事で、学校では教えない多くの事を学べ日常生活等で役立つ事がありました。今後も高齢者を介護すると言う理念ではなく、互いを必要とする生活を確立していきたいと思えます。専門員として分からない事が多く皆様方にお世話になると思いますが宜しくお願いします。



金田町社協 柳沢 敏彦

○経験年数 五カ月
 ○特技趣味 映画鑑賞、バイクにも時々、時間を見つけて乗っています。
 ○メッセージ
 私は、金田町社協に福祉活動専門員として入りました柳沢敏彦といいますが、社協に入る前は、施設で介護職員、相談指導員としてお年寄りの方々のお世話をさせて頂いていました。社協で働くようになって五カ月経ちますが、日々の業務に追われているというのが現状です。

そんな中、職場の上司、先輩方の暖かい御指導を受けながら、色々なことを勉強しているところです。「福祉」とは、全ての人々が、幸せになるためのお手伝いをする仕事ではないかと思っています。

私一人では微力でも出来ませんが、色々な方々の御指導、御協力を賜りながら、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

編集委員からひとこと

まなこ編集委員のお役もあと一年。早く読むだけの専門員に戻りたい。

栗子

今、私の一番の楽しみは二人の息子と一緒に風呂に入ることとつづく。私には福祉センター職員ではなく社協マンでありたい。久留米社協 古賀明日から一泊で宮崎へGO!どーか雪など降りませんよーに!! (誠)
 人の原稿を読んで、「自分の日常生活を改めよう」といつも思ってしまう自分が悲しい。

紅一点、専門員の専門性、社協とはと振りかえる楽しい時間でした。M・M専門員になって二年目で初めての編集委員。教わることが多いです。(和)
 原稿を依頼して心よく引き受けて下さった方々、ありがとうございます。今度、編集委員になっても私には、原稿を回さないで。白石英治